

## ■ 概況

1/18~1/24のNYMEX・WTIは、63.37~65.61ドルの範囲で一段と堅調に推移した。

1月25日は、需給均衡への期待感、前日のムニューシン米財務長官のドル安容認発言によるドル安進行で買いが先行したが、トランプ大統領のドル高歓迎発言でドル高に反転、原油先物の割高感や利益確定売りが広がり、4営業日振りに反落した。3月限の終値は前日比0.10ドル安の65.51ドルだった。

週末の26日は、ドル安・ユーロ高、株高による投資家のリスク選好姿勢により買われ、反発した。ペカーヒューズ社調べの米国内石油掘削リグ稼働数は759基と前週比12基増加したが、大きな影響はなかった。3月限の終値は前日比0.63ドル高の66.14ドルだった。

週明け29日は、対ユーロでのドルの反転上昇による売りに加え、利益確定売りもあって、反落した。前日の米国リグ稼働の増加・米国の増産観測も抑制要因となった。3月限の終値は前週末比0.58ドル安の65.56ドルだった。

30日は、米国株式の急落を背景に、リスク回避姿勢が広がり、最近の高値による利益確定売りもあって続落した。3月限の終値は前日比1.06ドル安の64.50ドルだった。

31日は、EIA米国在庫週報で、11週振りに原油在庫は積み増しとなったものの、製品在庫が予想外の取り崩しとなったことから、3日振りに反発した。3月限の終値は前週末比0.23ドル高の64.73ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(3月渡し)は、前週65.80~67.00ドルの範囲で堅調に推移した。1月25日67.90ドル、26日67.40ドル、29日67.60ドル、30日は

66.20ドル、31日65.70ドルで推移した。

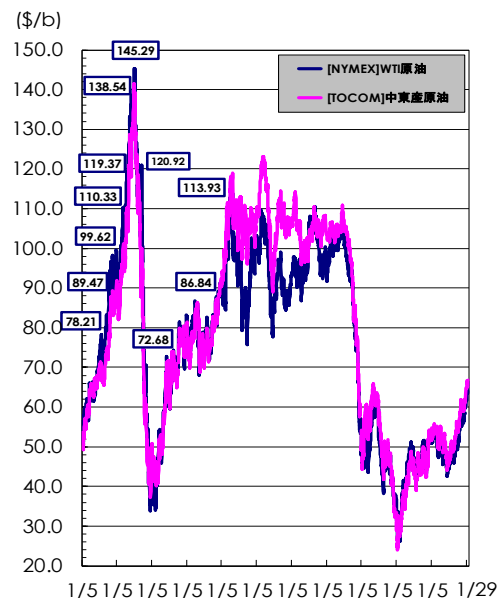
為替は、前週110.28~111.33円の範囲で推移した。1月25日109.50円、26日109.78円、29日108.71円、30日109.05円、31日108.79円で推移した。

財務省が30日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格は、45,046円/klとなり、前旬を91円下回った。ドル建てでは63.33ドルで前旬比0.18ドル安。為替レートは1ドル/113.07円。

主要元売会社の1月第4週に適用する卸価格は、全社、全油種とも据え置いた。原油価格はほぼ横ばいであったが、為替レートの円高で、原油調達コストはやや値下がりとなった。

そのような中で、1月29日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油は同0.4円の値上がりだった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油は19連続の値上がり、灯油も19連続(18%ベース)の値上がりだった。この週(1月第4週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、元売の卸価格は、全社が全油種とも据え置いた。

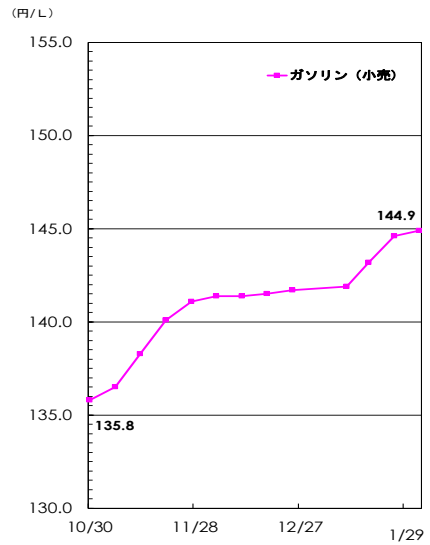
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/21 ~ 1/27	3,584 ▼ -105	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.5 ▼ -2.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/27	13,308 ▲ 280	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/29	66.83 ▲ 1.22	▲ 13.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/29	65.56 ▲ 2.07	▲ 12.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月上旬	63.33 ▼ -0.18	▲ 9.97
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,046 ▼ -91	▲ 5,959
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.07 ▼ -0.08	▲ 3.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/29	109.71 ▲ 2.04	▲ 6.02



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/21 ~ 1/27	964 ▲ 6	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	833 ▼ -55	▼ -	
	輸出	"	136 ▼ -24	▼ -	
	在庫	1/27	1,724 ▼ -5	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/23 ~ 1/29	61.9 ▼ -0.6	▲ 14.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/23 ~ 1/29	60.7 ▲ 0.1	▲ 11.3
		(TOCOM/中部)	1/29	61.0 ▼ -1.0	▲ 12.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/29	144.9 ▲ 0.3	▲ 13.9	

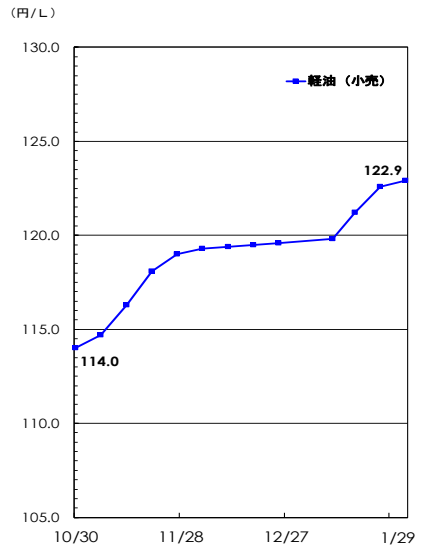
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

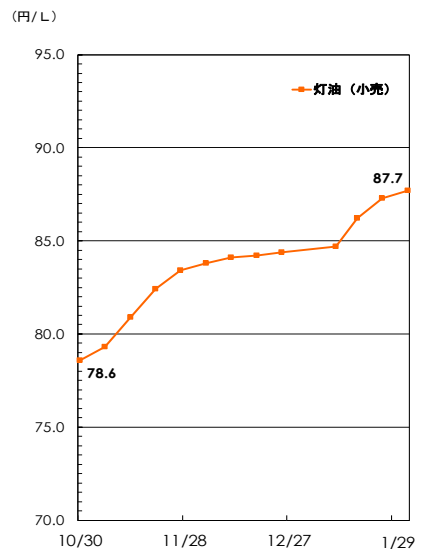
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/21 ~ 1/27	745 ▼ -101	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	648 ▲ 3	▼ -	
	輸出	"	55 ▼ -239	▼ -	
	在庫	1/27	1,692 ▲ 42	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/23 ~ 1/29	62.2 ▼ -0.2	▲ 13.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/23 ~ 1/29	60.0 → 0.0	▲ 14.0
		(TOCOM/中部)	1/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/29	122.9 ▲ 0.3	▲ 12.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/21 ~ 1/27	372 ▼ -87	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	577 ▲ 7	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	1/27	1,693 ▼ -205	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/23 ~ 1/29	64.7 ▼ -0.1	▲ 12.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/23 ~ 1/29	64.9 ▲ 0.5	▲ 15.1
		(TOCOM/中部)	1/29	64.1 ▼ -2.4	▲ 15.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/29	87.7 ▲ 0.4	▲ 9.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月31日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国内原油在庫が11週振りに前週比680万バレル増加と市場予想(同10万バレル増)と大きく上回ったこと、米国産油量が日量992万バレルと調査開始の1970年以降最高水準に近づいてきたことから、売りが先行したが、ガソリン在庫が市場予想(同10万バレル増)に反し同200万バレル減少、中間留分在庫も同190万バレルと予想(同150万バレル)以上取り崩しであったこと、から3日振りに反発した。外為相場のドル安・ユーロ高進行も支援材料となった。3月限の終値は前週末比0.23ドル高の64.73ドル、4月限の終値は前日比0.21ドル高の64.56ドルだった。

EIAによると、1月29日時点のガソリンの小売価格は前週比4.0セント値上がりの1ガロン2.607ドル(75.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比4.5セント値上がりの3.070ドル(88.9円/ℓ)。ガソリンは6週連続の値上がり、ディーゼルは2週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年1月21日～1月27日に休止したトッパー能力は19.9万バレル/日で、前週に対して15.0万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は358.4万klと、前週に比べ10.5万kl減少。前年に対しては29.5万klの減少。トッパー稼働率は91.5%と前週に対して2.7ポイントの減少、前年に対しては0.5ポイントの減少となった。

軽油64.8万kl(対前週0.5%増)、A重油27.9万kl(対前週11.3%減)、C重油26.5万kl(対前週8.8%減)。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.6%増、ジェット/51.0%増、灯油/18.9%減、軽油/12.0%減、A重油/14.0%減、C重油/27.6%減。今週のC重油の輸入は6.9万kl(前週比6.4万kl減)。軽油の輸出は5.5万kl(前週比23.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェットのみが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は83.3万kl(対前週6.2%減)と2週振りで前週比で減少、3週連続で前年比で減少となり、4週連続で100万klを下回った。ジェット13.3万kl(対前週22.7%減)、灯油57.7万kl(対前週1.3%増)、

(単位:千KL)

	今週 (1/21 ~ 1/27)	前週 (1/14 ~ 1/20)	前週比
ガソリン	833	888	▼ -55 (-6%)
ジェット燃料	133	172	▼ -39 (-23%)
灯油	577	570	▲ 7 (1%)
軽油	648	645	▲ 3 (0%)
A重油	279	315	▼ -36 (-11%)
C重油	265	290	▼ -25 (-9%)
合計	2,735	2,880	▼ -145 (-5%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月27日時点の在庫は、軽油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは172.4万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては1.4万kl多い。

灯油は169.3万kl、前週差20.5万kl減。前年に対しては10.5万kl少ない。

軽油は169.2万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては20.6万kl多い。

A重油は70.0万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては3.9万kl少ない。

C重油は196.9万kl、前週差7.1万kl減。前年に対しては3.5万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (1/27)	前週 (1/20)	前週比
ガソリン	1,724	1,729	▼ -5 (-0%)
ジェット燃料	823	839	▼ -16 (-2%)
灯油	1,693	1,898	▼ -205 (-11%)
軽油	1,692	1,650	▲ 42 (3%)
A重油	700	712	▼ -12 (-2%)
C重油	1,969	2,040	▼ -71 (-3%)
合計	8,601	8,868	▼ -267 (-3.0%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月23日から1月29日の原油価格は、前週対比で値上がりしたが、為替レートの円高がこれを相殺し、原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、1月23日～1月29日までの間、ガソリン115～116円台でやや値下がり、軽油62円台でやや値下がり、灯油64円台でわずかに値下がりし推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン119～120円台で出入り後わずかに値下がり、軽油64円台でやや値上がり

り、灯油67～69円台で大きく値上がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン114円台で小刻みに動きわずかに値下がり、軽油60円台で横ばい、灯油64～65円台で値上がりし推移した。

元売の卸価格は、全社、全油種とも横ばいとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、各油種とも、陸上は値下がり、海上は値上がり、先物はほぼ横ばいと割れた。

2月第1週(2月1日～2月7日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1月23日～29日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は横ばいだった。原油価格は値上がりしたが、為替の円高がこれを相殺し、原油コストはわずかに値上がりした。

2月第1週の大手元売の卸価格は、全社、全油種とも据え置かれた。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/23 ~ 1/29)	前週 (1/16 ~ 1/22)	前週比
レギュラー	61.9	62.5	▼ -0.6
灯油	64.7	64.8	▼ -0.1
軽油	62.2	62.4	▼ -0.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (1/23 ~ 1/29)	前週 (1/16 ~ 1/22)	前週比
レギュラー	60.7	60.6	▲ 0.1
灯油	64.9	64.4	▲ 0.5
軽油	60.0	60.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/23～1/29実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.6	▲ 0.1	▼ -0.3
灯油	▼ -0.1	▲ 0.5	▲ 0.2
軽油	▼ -0.2	➡ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

1月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の144.9円、軽油は同0.3円高の122.9円、灯油は同0.4円高の87.7円だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油は19週連続の値上がり、灯油も19週連続(18週ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは37道府県、横ばいは5県、値下がり5道府県だった。全国最安値は埼玉県の高140.5円(同0.5円高)、次が千葉県の高140.6円(同0.2円高)、最高値は沖縄県の高152.2円(同0.2円高)だった。最も値上がりしたのは、3.8円高の高知県(148.0円)だった。

先週の原油コストはやや値下がりし、元売会社の卸価格は、全社、全油種とも据え置かれたが、6週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりしたが、

為替レートの円高がこれを相殺し、原油コストはわずかに値上がりした。次週(2月5日)のガソリンの小売価格は横ばい、転嫁が未達の灯油の小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/29)	前週 (1/22)	前週比	直近高値
レギュラー	144.9	144.6	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	87.7	87.3	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	122.9	122.6	▲ 0.3	08/8/4 167.4

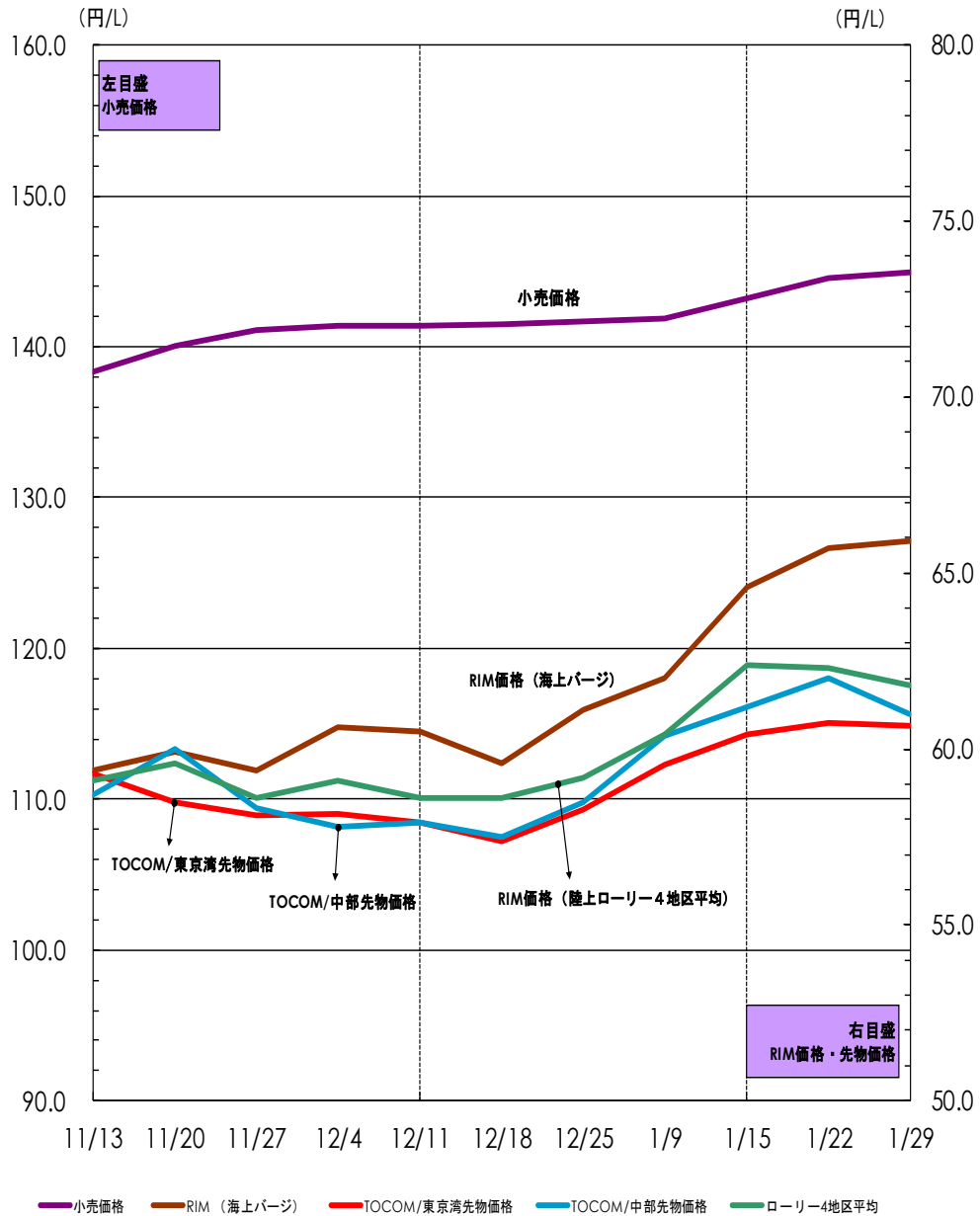
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/11/13 ~ 2018/1/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2017第42号) の公表は、2/9 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。